

どうして ●.NETは必要なのか

.NETの登場とその背景をもう一度考えてみる

豊田 孝 TOYOTA, Takashi



はじめに

本稿では、次のようなトピックを取り上げます。

- ・.NET Framework出現の意味と背景
- ・開発者に求められるスキル
- ・クラスを学習する視点

並べられたトピックを一瞥した人の中には、この記事はとても重そう! という圧迫を受けてしまう人もいるかと思いますが、本稿は次のような素朴な疑問をもっているすべての開発者を読者対象としています。

- ・.NET Frameworkとはいったいなんだろう?
- ・.NET Frameworkはどのような背景で出荷されたのだろうか?

本稿で前提となるもの

OS Windows 2000 Professional (SP3) 以降
開発環境 Visual Studio.NET



- ・.NETプログラミングとはいったいどのようなものなのだろう?
- ・クラスとはどういうものなのだろう?

ご覧のように、本稿は、IT業界に属する人ならだれしも一度は抱くと思われる疑問への回答を用意しようとしています。肩肘張らずに、お気軽に最後までお読みいただければ幸いです。なお、本稿で参照した資料は、稿末に整理しておきましたので、後日お時間のあるときに精読されてください。

それではさっそく第1のトピックに入りましょう。



.NET Framework出現の意味と背景

まずは、.NET Frameworkとはいったい何か? ということを考えてみようと思います。Microsoftの.NET 関連サイトを閲覧してみると、.NET Frameworkに関する、次のようなさまざまな説明や定義が行なわれています。

- ・.NET Frameworkとは、プラットフォームである。
- ・.NET Frameworkとは、Webサービスなどのアプリケーションを構築、配置、実行するための環境である。



もちろん、これら以外の定義や説明も多数散見されます。論理的な思考を好む、将来性豊かな開発者は、そもそもプラットフォームとは何か？ 環境とは何か？ と次々と新たな疑問を抱え込むことでしょう。これは余談ですが、Sun Microsystems社のJ2EEの正式名称は、たとえば、「Java 2 Platform, Enterprise Edition (J2EE) 1.4 platform」と表記されるようです。ご覧のように、“Platform”という単語が2つ出てくるため、いったいPlatform（プラットフォーム）ってなんだろう？ と悩んでしまいます。

現時点では.NET Framework定義にはこれ以上深入りせず、一時的に、次のように定義しておきます。より具体的かつ実践的な定義は、本稿後半で行ないます。

.NET Frameworkとは、Windowsシステム、COMシステム、および、インターネット技術を統合した、高度な抽象化インフラである。

すでに多くの方がご存知のように、2000年7月、Microsoftは“Microsoft.NET”という名称の戦略を公にしました。この名称の解釈もいろいろあるわけですが、当時、Microsoft.NETには「A Platform for the Next Generation Internet」というサブタイトルが付けられていました。英文サブタイトルを日本語化すれば「Microsoft.NETは次世代インターネットのためのプラットフォーム」ということになります。プラットフォームとは何か？ という問いはここでは無視し“次世代”の“次”に注目してみましょう。“次”というのは、“現在”時点から、時間軸上のプラス方向にある、相対的な「ある時点」を指します。

2000年7月当時、Javaはすでにプラットフォームと呼ばれていました。このため、Gates氏、Ballmer氏、Maritz氏などが参加したMicrosoft.NET発表記者会見後の質疑応答では「Javaは現世代インターネットのためのプラットフォームである」という認識から、一部の記者は「Microsoft.NETを今後どのように普及させてゆく予定ですか？」というニュアンスの質問をしています。この質問はきわめて自然なものです。しかし、当時、

司法省との裁判の影響などもあり、回答する側のMicrosoftには相当な難問だったはず。会見の席上に並んだMicrosoft首脳陣は、Maritz氏、Gates氏、Ballmer氏という順序で次のように発言しています。

Maritz氏の発言

- XML基盤（substrate）を採用し、Javaの唱えた価値をさらに発展させる
- 具体的な開発ツールをまもなく発表することになる

Gates氏の発言

- Microsoft.NETプラットフォームはインターネット上でのInteroperability実現を目指している
- Microsoft.NETプラットフォームと現世代プラットフォーム間には哲学的な相違がある
- すべてのソフトウェアをひとつの言語で書き換える必要はない

Ballmer氏の発言

- JavaとXMLの間には、ちょっとした違和感（tension）がある
- XMLはオープンであり、多くの人が参加できる利点がある

直接質問を受けたBallmer氏はMaritz氏に発言機会を譲り、Gates氏はMaritz氏の直後に、Ballmer氏の前に割り込むような形で突然口を開いています。この緊張した会見の模様に興味のある方はぜひ関連サイトを閲覧されるとよいでしょう。

一部の方は、このような情報が私たちのソフトウェア開発ビジネスに直接役に立つのか？ と疑問視されているでしょうが、私は知っておいて損はないと考えます。ご承知のように、Gates氏は、Microsoft.NETに社運を賭けると豪語しています。私たちがMicrosoft.NETの世界を理解するためには膨大な時間を割かなければなりません。それは貴重な時間の投資であることもあり、Microsoft社首脳陣の決意を自分なりに評価／判断し、同社の将来の方針をきちんと見定めておく必要があります。